

福島第一原子力発電所廃炉検討委員会セッション

「福島第一原子力発電所廃炉検討委員会」活動報告

Periodical Report from Study Committee on Decommissioning of The Fukushima Daiichi NPP

(6) 廃棄物検討分科会からの報告

(6) The report from a waste examination subcommittee

柳原 敏¹¹廃棄物検討分科会主査，福井大学

福島第一原子力発電所の廃止措置においては、除染、解体などの作業で発生する放射性廃棄物の合理的な管理（処理、処分を含む）について十分な検討を実施することが重要である。このため、福島第一原子力発電所廃炉検討委員会では廃棄物検討分科会を設置して以下の検討を進めている。

- ・ 廃止措置で発生する廃棄物の特性評価
- ・ 廃棄物管理シナリオの評価
- ・ 安全性・実現可能性の評価
- ・ 事故炉の廃止措置及び環境修復に係る調査整理

このうち、廃止措置（除染、解体など）で発生する廃棄物の特性評価では、廃止措置シナリオなどの時系列を考慮して、これまでに発生したもの、燃料デブリ取り出し作業で発生するもの、施設の解体・除染作業から発生するものなどに対し廃棄物量を予測するとともに、特性の整理を進めている。また、廃棄物管理シナリオは、安全性、経済性、社会的受容性など、様々な観点からの分析が必要であり、作業シナリオに対応して幾つかの廃棄物管理シナリオの想定と分析を実施する予定である。OECD/NEA や IAEA においては、これまでに経験した原子力施設の事故を調査し、事故後の取組を、事故対応、安定化処置、事故後除染、廃止措置及び環境修復などに区分して、放射性廃棄物の管理に係る活動の整理が行われている。福島第一原子力発電所の放射性廃棄物に係る対策に関しても同様な整理が必要と思われる。また、廃止措置に係るエンドステートの検討も重要な課題となる。

他方、福島第一原子力発電所の廃止措置及び環境修復は長期に及ぶものであり、当面の課題と中長期的課題に分けて検討を進める必要がある。さらに、これらの活動では多くの情報が得られるが、廃棄物管理や処分等に向けて整理・継承すべき情報・知識などについての検討も進める予定である。

Satoshi Yanagihara¹¹University of Fukui